

ブック村だより

特集

本学コレクション紹介(9)

K.マルクス『資本論』第1巻, 初版(1867)	高橋 哲雄 (1)
大阪商業大学図書館 平成16年度 図書館利用状況	(2)
ぶっくす・なう	(4)
『(競作) 五十円玉、二十枚の謎』	谷岡 一郎
『商業・まちづくりネットワーク』	中野 安
『日銀券』上・下	佐和 良作
『おみやげ：贈答と旅の日本文化』	下山 晃
学生の声	(6)
	澤田 幸大
	大西 翔
調査のためのツール紹介(2)	(7)
インフォメーション・開館案内	(8)



本学コレクション紹介(9) K.マルクス『資本論』第1巻, 初版(1867)

『資本論』は日本の社会科学書の収集史のなかでは特別な位置を占める。第1巻の初版本(1000部刷られた)が日本には何冊あるのか、といったことが話題になり、探索され、ついには本になる(鈴木鴻一郎『資本論偏歴』1971)という状況は外国ではまず考えにくいことだからだ。

鈴木氏によると、当時の所蔵状況は大学・研究所で13ヶ所、18冊、個人で13冊、計31冊だった。これはどの外国よりも多い数字らしい。第1次大

戦後のドイツの超インフレ時に日本の留学生が高価な本を気軽に買い込めたからで、またその背景にはやはりマルクス熱があった。

現在は大学・研究所が37ヶ所、47冊と増え、個人所蔵は激減して2冊になった。所蔵家が亡くなられて、大学が入手するケースが多いようだ。ちなみに本学の所蔵本は全3巻(4冊)揃い、別個に製本されており、カットされているが、書き入れはない。1983年購入。(名誉教授・高橋哲雄)

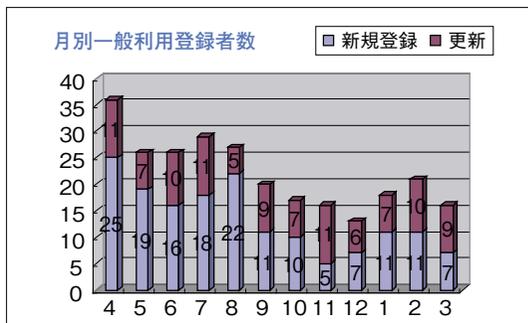
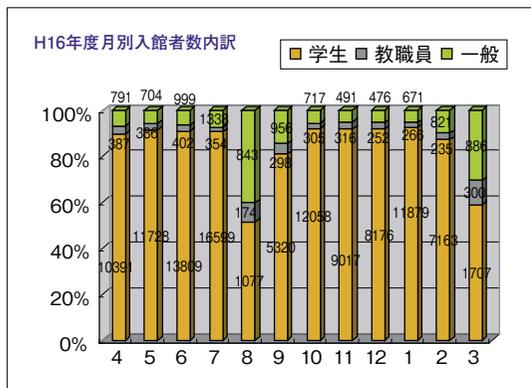
平成16年度 図書館利用状況

昨年度の図書館利用状況は下記のとおりです。

【入館者数】

年間入館者数 119,508人 (前年度29.9%増)

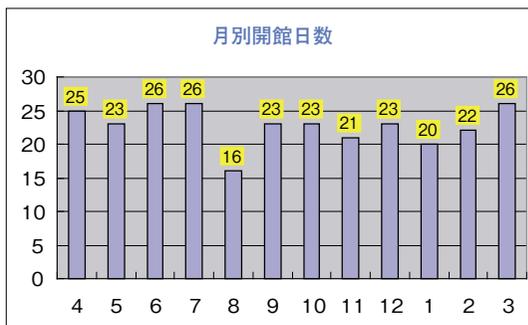
うち一般入館者数 9,693人 (前年度13.8%減)



【開館日数】

年間開館日数… 298日

(閉館 = 日・祝日、創立記念日、夏期休館日、
年末年始休館日、蔵書点検日)

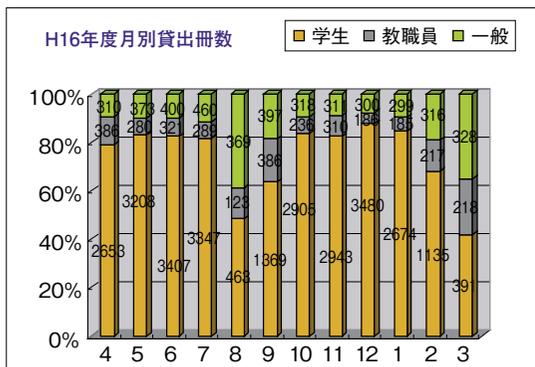


【貸出冊数】

年間総貸出冊数…35,294冊 (前年度 7.1%増)

(うち学生27,976冊、1人あたり 6.29冊)

(うち一般 4,181冊、1人あたり 8.7冊)



【相互利用件数】

		H15	H16
照 会	依 頼	53	18
	受 付	14	13
閲 覧	依 頼	0	5
	受 付	10	6
複 写	依 頼	384	392
	受 付	23	25
借 受		35	66
貸 出		15	15

【一般利用登録者数】

新規登録者数162名、更新者103名

[補足]

左表項目の「照会」とは、利用希望があったにも関わらず本学に所蔵がなかった資料について、他機関の担当課に所蔵の有無を問い合わせることをいいます。近年、各図書館ホームページ上で目録を公開している機関が増加したため個人でも状況を把握する事が可能になり、窓口を通して問い合わせる件数は減少する傾向にあります。また本年度より、全国規模で実施されている国立情報学研究所による文献複写等料金相殺サービスに加入予定のため、手続きが効率化し、依頼・受付とも件数の増加が予想されます。

ガイダンス実施状況

●実施期間

4月15日(木)～6月2日(水) (うち24日間)

1コマ1クラス対象。教員より申し出があったクラスのみ6月に実施。

●参加クラス数 42クラス (全クラス)

●参加人数 842人

●実施方法

- ①学生にはあらかじめ教員よりガイダンスの日時を連絡してもらっておく。
- ②実施当日、図書館2階ゲートへ集合。
- ③対象者に資料を配布。(説明資料 (B4サイズ1枚、全員) および図書館利用案内 (パンフレット、希望者のみ) を配布。
- ④2階フロアより各階の施設見学後、6階コンピュータルームへ集合。図書館利用規程・マナー・OPAC (公開端末) の使用方法・外部データベース紹介を中心に30分程度の説明を行う。
- ⑤説明終了後、アンケート記入ののち、教員の指示 (解散、自由見学など) に従う。

●反省点及び今後の運用について

今年度の新生は全般的に大人しく、特に混乱は見受けられませんでした。反面、担当者より「説明に対して見せる反応が少ないように感じる」という意見が多く聞かれ、ガイダンス時間に関するアンケートでは、所要時間・説明内容が昨年と同

様であるにも関わらず、「長い」と答えた学生が8%増加し、移動途中で他の学生にまぎれて退出してしまうなど、集中度が低下しているように見受けられました。

OPAC検索実習では1人1台の端末を使用していましたが、学生の操作習熟度にばらつきがあるため、スタッフが操作の手助けをしている間は操作に慣れている学生を待たせてしまい、やはり集中力が散漫になりがちでした。

図書館ではこれらの点をふまえ、平成17年度よりガイダンスの見直しをはかりました。

新図書館ガイダンス

従来図書館では前項のとおり、新生を対象とする基礎ゼミクラス単位の利用ガイダンスを行って参りましたが、この度全面的な見直しをはかりました。新図書館ガイダンスの内容は以下のとおりです。

①新生対象 利用ガイダンス (5月第2週)

会場を蒼天ホールとし、同曜日・同時限の複数の基礎ゼミクラスを対象に行います。説明には会場スクリーンを利用し、施設案内、手続き方法、規程・マナー、OPAC検索実演などを説明します。

②情報検索セミナー (申込随時)

情報検索のための基礎から応用までを、実習を中心に説明します。

演習クラス単位で、教員より申し込みがあれば随時行います。主に、パソコン25台が設置されている図書館6Fコンピュータ室で行います。

説明内容については事前に教員と相談し、ゼミ分野の調査・研究に必要な手法やツールについて、例えば下記のような説明を行います。

- ・キーボードの使い方、日本語入力の基礎・本学OPACの検索方法
- ・例題による図書館の蔵書探索実習
- ・新聞・雑誌記事の探し方
- ・必要な資料を持っている図書館の探し方
- ・ニュース、法律、統計データを探す
- ・各種調査用データベースの紹介

以上を実施しながら、内容・手法の改善を繰り返していく予定です。

『(競作)
五十円玉、二十枚の謎』

(創元推理文庫, 2000.11)
若竹 七海 [ほか] 著

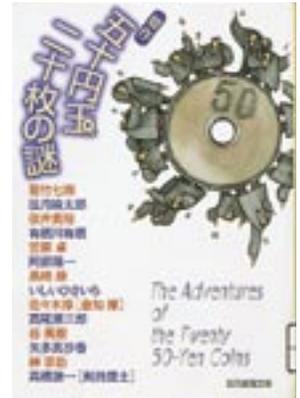
毎週土曜日、池袋のある書店に正体不明の男が現れ、必ず「千円札に両替して下さい」と五十円玉を二十枚レジのカウンターに並べる。両替するや否や、男は急いで書店を立ち去るのであった。一体、この男は何者で、何のためにこんなことをするのか。正解は本人にはわからないにせよ、この実際に起こった不思議な出来事に合理的な説明をつけようとした、一風変わった短編集である。プロの推理作家のみならず、一般から公募した作品のうち、優秀作品六編を加えた十二編はどれもおもしろく、しかもこれが重要な点であるが、どの二作品も異なる結論に達しているのだ。どの作品も単独の短編として読めば、「ああ、なるほど、そうだったのか」と納得させられるものでありな

がら、解釈・謎解きにこんなにバラエティがあることにまずもって驚くのである。逆に言えば既存の多くの推理物ミステリーの謎解きが、必ずしも唯一の正解でない可能性もあるということ、これは

は実社会すべてに当てはまること。常識を疑い、発想を変えることが求められる、大学生たちに勧めるゆえんである。

なお付録として、この短編には漫画家いしいひさいち氏による作品もあるが、個人見解としてこの作品は謎解きとして上位の部類に入る。結論、本書は謎解きの好きな人の必読書である。

(学長 谷岡 一郎)



『商業・まちづくりネットワーク』

(ミネルヴァ書房, 2005.2)
石原 武政, 加藤 司 編著

商店街の衰退が深刻になってから久しいが、本書は、立地産業であり地域産業である小売業を「単なる物販業」としてではなく、都市や地域のさまざまな問題と関連させて広い視野から総合的に捉え、商業概念の再定義を迫るとともに、地域商業再興の道を多面的に追求した労作である。

本書の特徴は第1に、数多くの小売業現場・商店街を訪れた豊富な現場体験に基づき、最も遅れていたこの分野において独創的理論を切り拓いた石原・加藤の2人をリーダーとしているため、この種の著書にありがちな経験や事例の単なる寄せ集めではない点にある。第2は、多様な経験をもつ社会人院生の実証的研究の成果を取りまとめた

点にある(その水準の高さに驚かされる)。そして第3に、問題の多面性とユニークな理論的枠組みのゆえに、取り上げられた問題が多様なことである。例えば、都心部における新しい商業地の生成・コミュニティ再生とまちづくり、住民主導型まちづくり、エマルション型商店街活性化事業、商店街組織のマネジメント、地域通貨、一品逸品運動、地域ブランドの確立、建築物の用途転用問題等が、各章で取り上げられている。興味をもった章から読み始めてよい。しかし、序章「商業・まちづくりの時代」と終章「商業・まちづくりの展開に向けて」はぜひ読んでほしい。

(総合経営学部教授 中野 安)



『日銀券』 上・下

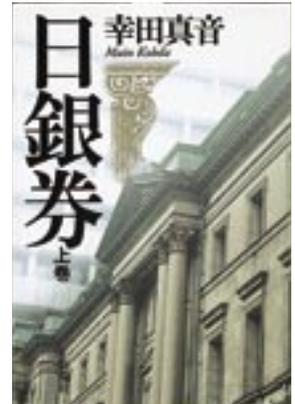
(新潮社, 2004.10)
幸田 真音 著

著者は、外資系の銀行で債券ディーラーなどの仕事をした後、10年前に作家に転身した。債券や為替のディーラーの世界では、買ったということを確認することばとしてmine (マイン)、売ったということを確認することばとしてyours (ユアーズ) が使われる。滋賀県出身の著者は、日常生活では「かった」というのではなく、「こうた」といっているに違いない。ペンネームは「こうた、マイン」に由来するものと推測できる。本書は、まさに現在日本で続いているゼロ金利の時代を背景にした小説であり、その主な舞台は日本銀行の政策委員会と日本の金融市場となっている。主人公は、審議委員と若い女性の日銀副総裁の二人であり、この二人が阿吽の呼吸で力をあわせて日本

の金融市場だけでなくアメリカの金融市場をも変革しようという物語である。この間に審議委員と美貌の副総裁との愛の話もちりばめられてあり、息抜きができる。

この本を読むに際して難しい金融についての知識はまったく必要としない。金融に関する知識が乏しくても、誰でもスラスラと読むことができる。そして、本書を読み進んでいくうちに、日本だけでなく世界の金融市場がどのような要因で動いているのかが自然と分かっていくに違いない。ゾクゾクとするような物語の展開と、金融の勉強との両方が楽しめる本である。

(経済学部教授 佐和 良作)

『おみやげ
：贈答と旅の日本文化』(青弓社, 1997.3)
神崎 宣武 著

旅をした時や親しい人を改まって久しぶりに訪ねる時など、私たちは「おみやげ」を買う。この「みやげ」をやりとりする文化は、今でも世界の多くの民族文化に共通するものだ。どこの文明圏でも古来、贈答や歓待の慣習は、社会的に非常に重大な役割を果たしていたことが判っており、「手みやげ」の何たるかについても、歴史家や人類学者が大いに注目しはじめている。

本書は「みやげの民俗学」「旅の人類学」といってよい豊富な内容の興味深い切り口の著作で、ふだん何気なく買ったりもらったりしていた「おみやげ」の中にこれほど多様で多彩な歴史が蓄積されてきたのかと、「へえボタン」連発間違いないの面白い話題いっぱいの本である。「みやげ」

の起源やそれにまつわる風習・習慣、年中行事と「みやげ」の関連、江戸時代の宅配便事情など、他の書物にはなかなか見当たらない興味深いエピソードや考察もふんだんに盛り込まれている。しかも、気軽に読める読み物としても、十分に楽しめる読みやすさである。

学生時代は旅のチャンスがいっぱい。本書で仕入れた「みやげ」の蘊蓄を頭にいっぱい詰め込んで、どこかへ素敵な旅をして、その素敵な旅の「みやげ話」を、誰か聞かせてくれないものだろうか。その旅の思い出は、未来の自分に対する大切な贈り物にもなること、まずは間違い、ナシ。

満天の星を みやげに 風の旅 響太郎

(総合経営学部助教授 下山 晃)



『自己流図書館の使い方』

経済学部 経済学科3年
澤田 幸大

大阪商業大学の正門を通過してすぐにメディアセンター（図書館）という施設があります。

私自身、普段あまりメディアセンターへ足を運ぶ機会はありませんが、試験やレポートなどの課題がある時は必ずといってよい程お世話になっています。施設内部には誰でも読めるような小説からとても難しい内容の専門書まで幅広いジャンルの書籍があり、多くの学生や職員さん、先生方がメディアセンターを利用しています。本が多いことや6Fにパソコンルームがあるので資料を集めやすく、内容がしっかりとしたレポートが作成できるのでこの環境はとても便利です。

テスト期間になると私はメディアセンターでテスト勉強をします。どうしても自分の家で勉強しても集中できずに横に置いてある漫画の誘惑に負けてしまうからです。ですが、その点メディアセンターでは勉強を妨げるものはなく集中して打ち込むことができます。

また、DVDやビデオ、音楽を鑑賞できる環境があり、色々な雑誌や新聞も置いてあるので勉強以外にもメディアセンターには様々な利用の仕方があるのです。ふらりと休憩に立ち寄っても良いかもしれません。ただ時々ですが人が勉強している時や読書している時に大声で私語をする人がいます。そういう人は他人の邪魔をせず、きちんとマナーを守ってほしい。

普段から勉強以外ではメディアセンターには行きませんが、良い機会なのでたまには図書館で本を借りてゆっくりと読んでみようと思います。

『本の力と図書館という空間』

経済学部 経済学科4年
大西 翔

大阪商業大学正門から入りすぐにメディアセンター（図書館）が見える。1階はくつろぎのスペースがあり2階から6階までは本が並ぶスペースとなっている。6階にはパソコンルームやベランダがあり1日中多くの生徒が利用している。図書館には様々な利用者が訪れる。本が好きで本を読みに来る人からレポート作成のために本を借りに来る人、図書館で眠るために来る人。沢山の人が図書館を訪れるがそれでも利用者は少ないと思う。図書館に入るには学生証を通さなければ入れないし図書館を利用するには面倒な事が多いかも

しれないが、それでも利用する価値はおおいにあると思う。

大阪商業大学の図書館には色々な雑誌や新聞といった日常を過ごすための情報誌や誰でも手軽に読める小説、学習するために必要な専門的な本と様々な種類の本がそろえてある。ただの紙に書かれた文字だが著者が伝えたい事、著者の心がつまっている。それを理解しようとして読めばそれだけで知識というものを得ることができる。それだけ本にはすばらしい力がある。普段図書館に行かない人も図書館という場所で独自の空間で自分だけの席、自分だけの場所を作ってみてゆっくり本を読んでみてはどうだろう。図書館に通い続けければ自分に合った本やお気に入りになる本と出会えるだろう。よく利用する人は図書館に置いて欲しい本や図書館に欲しい設備などを要望してはどうだろうか？

調査のためのツール紹介(2)

従来図書館には、調査研究の際に利用する「参考図書」を紹介する「参考図書目録」といった参考資料が置かれています。インターネット検索が大きな位置を占めるようになりだした時代の流れにあわせ、そういった参考資料の内容も変化を見せています。今回は、図書館6階「参考図書コーナー」に置かれている資料の中から、インターネットによる調査を範疇^{はんちゆう}に入れ、参考図書を含め、道しるべとしておすすめ資料をご紹介します。

『インターネットで文献探索2004年版』

(伊藤民雄 著, 実践女子大学図書館 編; 日本図書館協会, 2004.10)

同図書館のホームページ上に公開されている紹介記事には、「本書の目的」として、『学術上の調査・研究、情報検索に役立つサイトとデータベースを紹介するガイドとしての役割と人類がどこにアクセスして文献探索を行っていたかを記録すること。』と述べられています。人物情報・各国の事辞典・翻訳サイトなどが紹介された「探索補助ツール」(第1章)など、論文作成のツールとして役立つでしょう。図書検索(第2章)は「近新刊情報」「新刊図書」「電子書籍書店」「絶版図書」「図書館蔵書目録」「図書の内容」「法令・議会資料」など、用途に即した項目毎に紹介されています。雑誌・論文検索(第2～4章)、音楽・映像データベース(第5章)についても各国・各言語ごとに多数紹介されています。

上記「紹介記事」のURL(実践女子大学図書館サイト内)は下記の通りです。

<http://www.jissen.ac.jp/library/frame/intro.htm>

本学図書館での所在は下記のとおりです。

配架場所: 6階参考 背ラベル番号: 007.5/189

『調べごと解決!情報源 2004年版』

(生活情報センター編集部 編集・発行, 2004.3)

第1部で「情報源」約5,000種類が143項目のキーワードに従って紹介され、第2部では専門図書

館300館ガイドが収録されています。各キーワードに関する刊行物、機関名およびそのURLが、1ページごとに項目(例:「食べ物についての情報源」「新聞についての情報源」)で紹介され、それぞれ調査対象ごとに(例:「官庁で調べる」「統計データで調べる」)簡潔に紹介されています。

(配架場所: 6階参考 背ラベル: J031.3/Se17)

『「テーマ・内容」で探す本のガイド』

(東京書籍出版編集部 編; 東京書籍, 2000.9)

書名のとおり「本」のみが紹介されていますが、ネット検索の文字通り「鍵」を握る「キーワード」を選択する際、とても参考になるであろうという趣旨でこの図書をご紹介します。

「人物」「事件・出来事」「文化・技術」「生活・趣味」「自然」の5分野で構成され、17の大項目、94の中項目、小項目688細目に分けられて本のデータ(タイトル、著者、出版社など7項目)が紹介されています。目次のほか、巻末に全項目の人物索引および事項索引が掲載されています。掲載冊数にも驚かされますが、キーワードの関連づけ方、1つのキーワードのもとにあらゆる分野の書籍が並べられている(例:テロ(細目)の項に、「現代戦争論(加藤朗/中央公論新社)」、「テロリストの夏」(佐伯泰英/祥伝社(小説))、「爆弾事件の系譜(萩原晋太郎/新泉社)」などが紹介)という構成の仕方に、発想力を刺激される読者も多いのではないのでしょうか。

(配架場所: 6階参考 背ラベル: 025.1/To46)

図書館インフォメーション

◆「貴重図書」展示会を実施しました

本年度より図書館ホームページ上で「貴重図書目録」を公開するにあたり、平成17年2月19日(土)より26日(土)まで、図書館5階貴重書庫内および5階エレベーターホール前にて、パチョーリ『スママ』（世界最初の複式簿記の本）やアダム・スミス『国富論』など、本学図書館所蔵の貴重図書701点を公開しました。期間中約150名の方に見学頂き、23日に東大阪市広報公聴室より取材がありました。

◆平成16年度下半期に寄贈された本学教員著書は下記の通りです。（教員名50音順、敬称略）
※配架場所は、本学教員著書コーナーです。

【下山 晃】『毛皮と皮革の文明史』—ミネルヴァ書房, 2005.

【滝沢秀樹】『韓国の労働者』／ハーゲン ケー著; 滝沢秀樹, 高龍秀訳. —御茶の水書房, 2004.

【中津孝司】『ロシア・東欧経済』／西村可明編. —日本国際問題研究所, 2004.

『新マーケティング読本』／中津孝司編著; 富山栄子[ほか] 著. —創成社, 2004.

【成田孝三】『成熟都市の活性化』—ミネルヴァ書房, 2005.

【南方建明】『日本の小売業と流通政策』—中央経済社, 2005.

【八尾 晃】『貿易取引の基礎知識』新版. —東京経済情報出版, 2004.

【山本 誠／島田美智子／飯尾孟秋／坂手啓介／和田伸介／塩塚武康／谷岡弘二】

『現代商業簿記講義』—中央経済社, 2005.

◆卒論作成用の特別貸出について

4年生の皆さんは、卒業論文作成のための特別貸出ができます。延長手続きを行わずに、1ヶ月借りることができます。希望者は貸出時にカウンターまで申し出て、手続きを行って下さい。

◆夏期休暇期間中の長期貸出について

夏休みの学習・研究用に長期貸出サービスを行います。実施期間中は図書の貸出すべてに適用されます。手続きは通常どおりです。詳細はポスター・掲示板でお知らせします。

開館案内

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24 31	25	26	27	28	29	30

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

●は休館日です。

上記以外にも臨時休館日を設ける場合があります。時間変更等、詳細は学内掲示・モニター・ホームページ等でお知らせ致します。
開館時間は平常通り（月～土 9：00～20：00）です。

大阪商業大学図書館報「ブック村だより」第26号

平成17年5月31日

発行

大阪商業大学図書館

〒577-8505 東大阪市御厨栄町4-1-10

電話(06)6781-5280

FAX(06)6781-0089

e-mail : lib@oucow.daishodai.ac.jp

ホームページアドレス : <http://www.lib.daishodai.ac.jp>

ISSN 1346-8928